

1 国の動向

(1) こども基本法の制定

令和5年4月1日、「子どもの権利を守る法律」として、こども基本法が施行されました。こどもの生活や権利が十分に守られていない状況で、若い世代の中でも「こどもを満足できる環境で育てられるか不安」と感じる風潮が強くなっています。

国は、こどもの利益を一番に考え、こども関連の取組を国の中心に据えることが重要という認識からこども基本法を制定しました。

(2) こども大綱の閣議決定

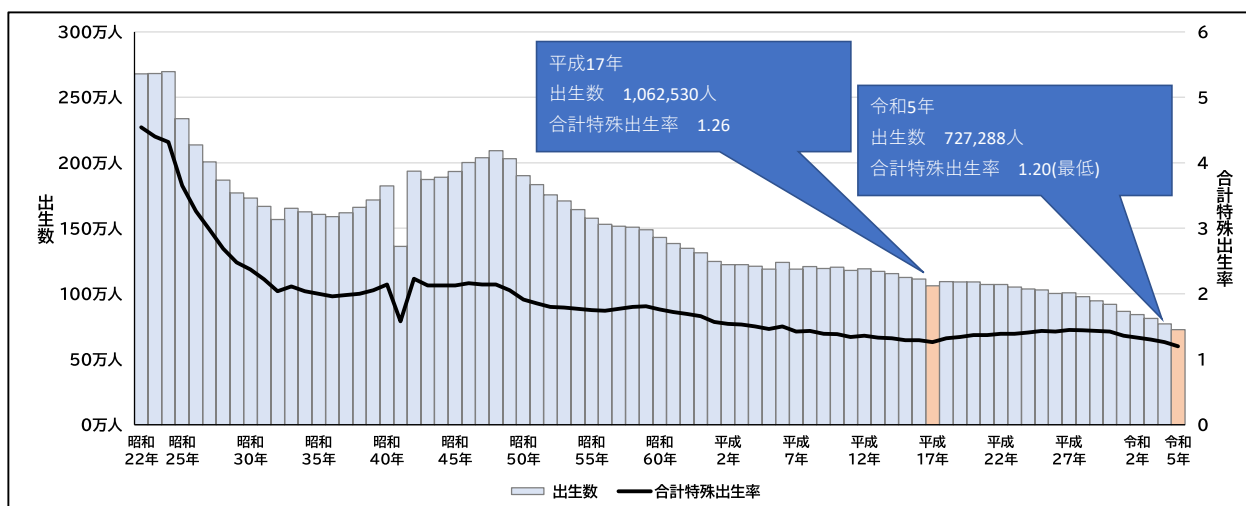
こども基本法第9条には、「政府は、こども施策を総合的に推進するため、こども施策に関する大綱を定めなければならない」とあり、令和5年12月に「こども大綱」が閣議決定されました。

こども大綱では「こども」から「こどもや若者」と対象が広げられ、「若者」については20代、30代を中心とする若い世代とされています。

(3) 止まらない少子化

国における出生数は減少傾向で推移しており、令和5年には727,288人となっています。また、合計特殊出生率は、平成17年に過去最低の1.26を記録して以降増加傾向に転じていましたが、平成27年以降再び減少に転じ、令和5年には過去最低の1.20となりました。人口維持に必要とされる2.07とは大きな隔たりがあります。

出生数及び合計特殊出生率の年次推移(全国)

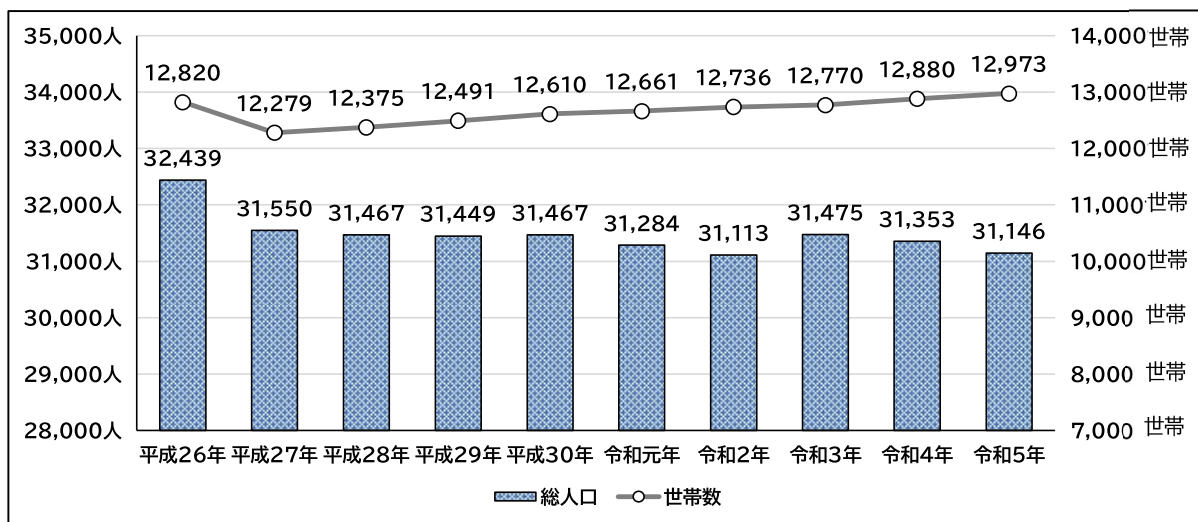


資料：厚生労働省「人口動態統計」

(1) 人口・世帯などの推移

町の人口（各年1月1日現在）は、平成26年以降減少傾向を示していましたが、令和3年に増加に転じ、その後はまた減少しています。令和6年の人口総数は31,146人となっています。世帯数は、平成27年以降一貫して増加傾向が続いており、令和6年は12,973世帯となっています。人口は微減傾向に対して、世帯数は増加傾向のため、1世帯あたりの人員は減少しており、平成27年の1世帯あたり人員2.57人から令和6年には2.40人となっています。

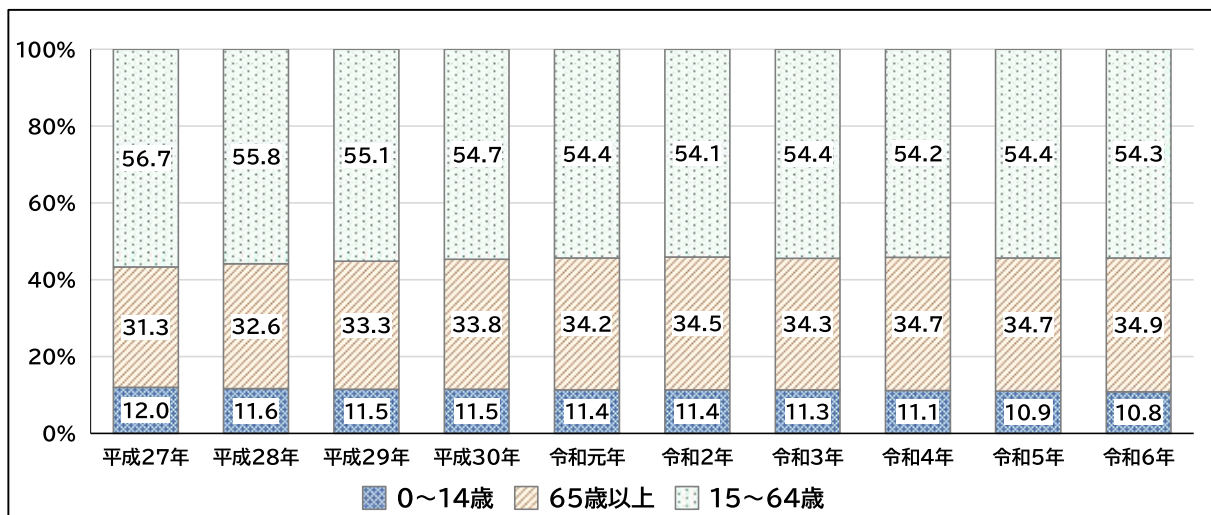
大磯町 人口と世帯の推移



出典）神奈川県人口統計調査

町の年齢3区分別人口構成の推移では、年少人口（15歳未満）、老年人口（65歳以上）の割合が減少する一方で、生産年齢人口（15～64歳）の割合が増加しています。

大磯町 年齢3区分別人口構成の推移

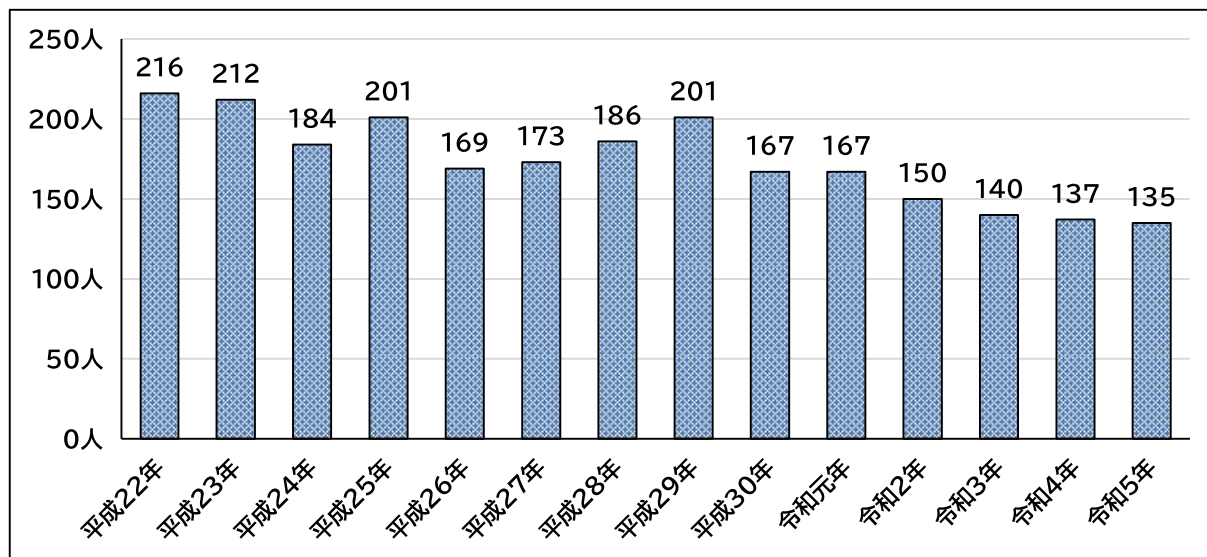


出典）神奈川県人口統計調査

(2) 出生数・合計特殊出生率

町の出生数は、平成26年の169人から微増が続いていましたが、平成30年は167人となり、その後減少が続いています。

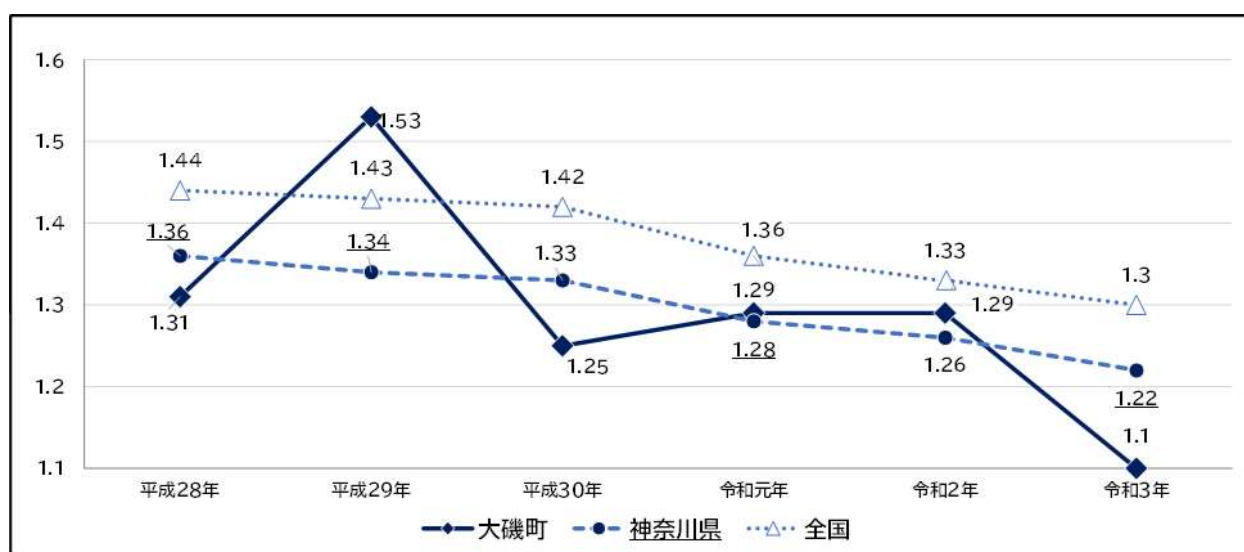
大磯町 出生数の推移



出典) 神奈川県人口統計調査

町の合計特殊出生率は、変動が大きく、全国平均や神奈川県平均を上回るときもあれば下回る時もありましたが、令和3年には1.1と全国平均や神奈川県平均を大きく下回っています。

合計特殊出生率の推移(全国、神奈川県、大磯町比較)

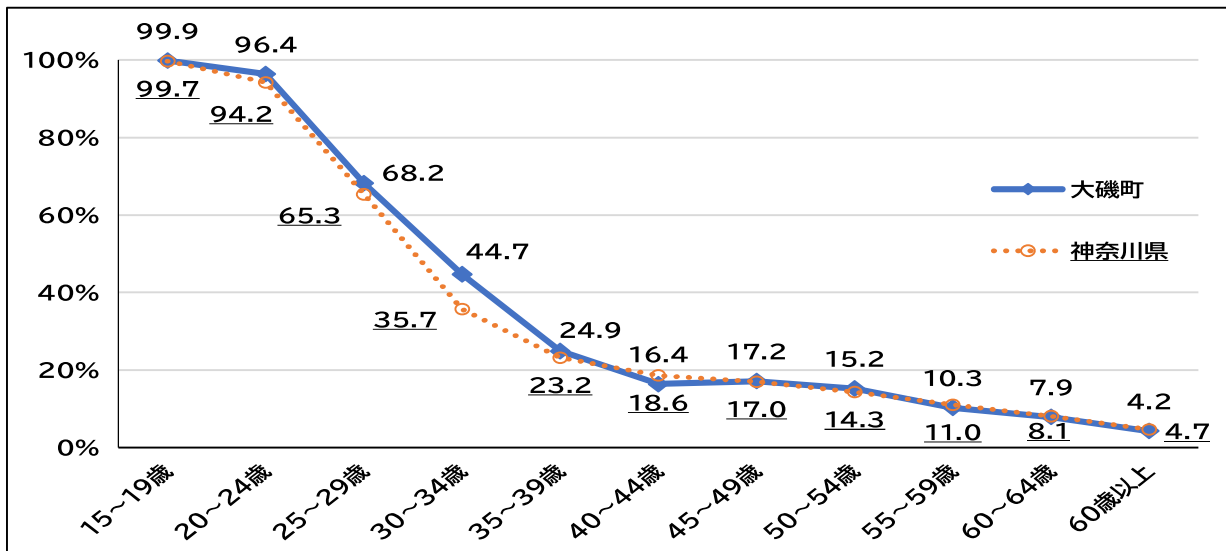


出典) 神奈川県衛生統計年報-神奈川県・大磯町/人口動態統計--全国

(3) 未婚率

町の女性の未婚率は、神奈川県との比較では20～39歳の未婚率が高くなっています。

女性の未婚率（神奈川県、大磯町比較）

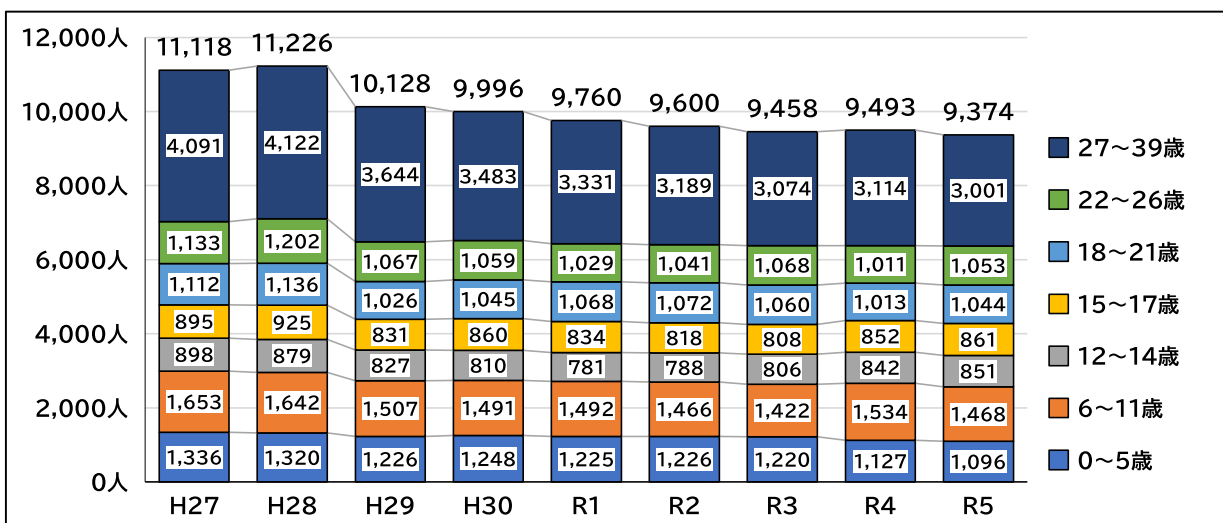


出典) 国勢調査

(4) こども人口

町のこども人口（0～39歳）は平成28年の11,226人から令和5年の9,374人まで、減少傾向で推移しています。年齢階層別にみると、11歳未満と22歳以上で減少、12歳～21歳で微増となっています。

大磯町 こども人口の推移



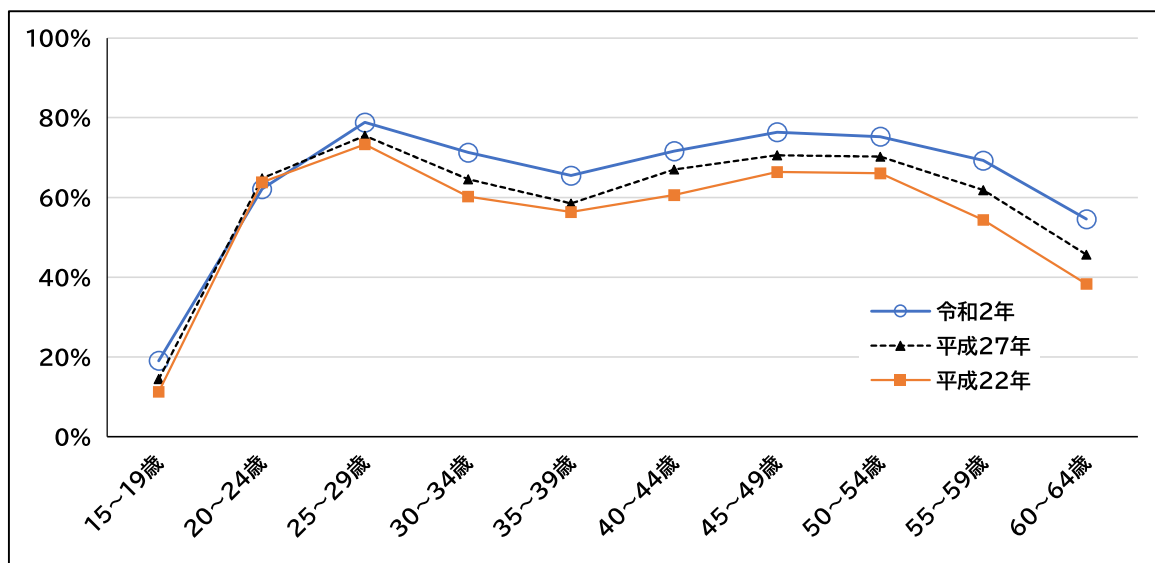
出典) 神奈川県人口統計調査

（５）女性の就業状況

町の女性の年齢別就業率は10年前の平成22年と比較すると、25歳以上の年齢層全般で増加しており、女性の社会進出がより顕著となっています。特に50歳代、60歳代の比較的高い年齢層での増加が目立ちますが、30歳代、40歳代も増加しています。

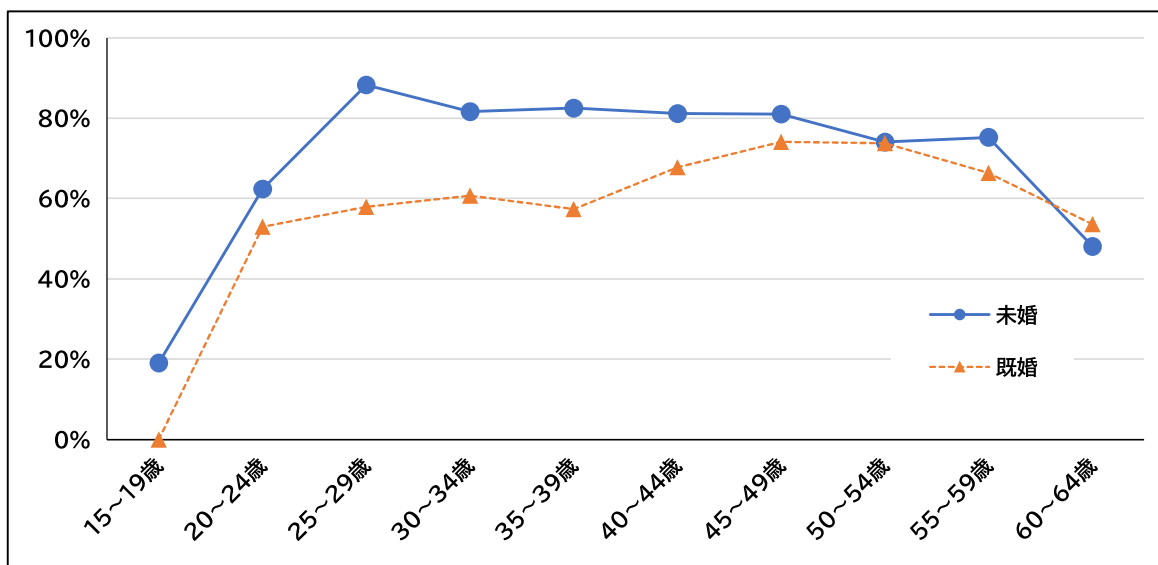
女性の未婚既婚別の就業率では、若い世代を中心に未婚の就業率が既婚の就業率を上回っています。

大磯町 女性の年齢別就業率推移



出典）国勢調査

大磯町 令和2年の女性の年齢別就業率（未婚既婚別）

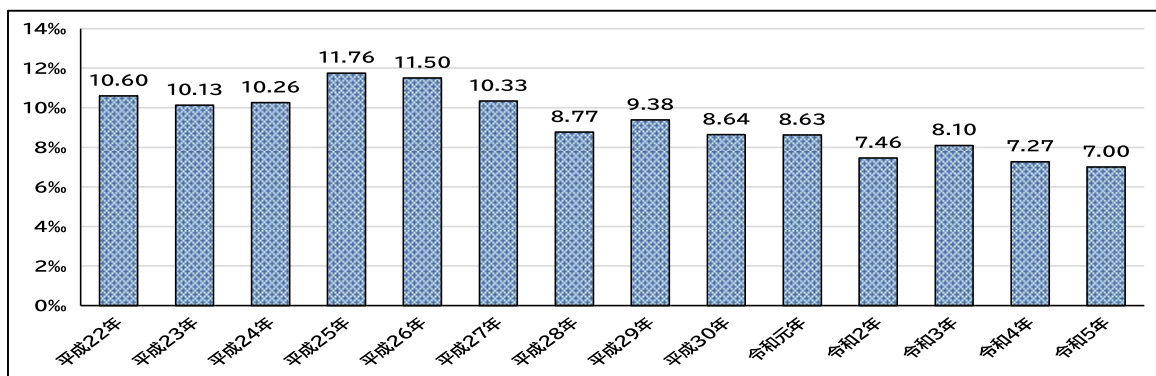


出典）国勢調査

(6) 婚姻・離婚

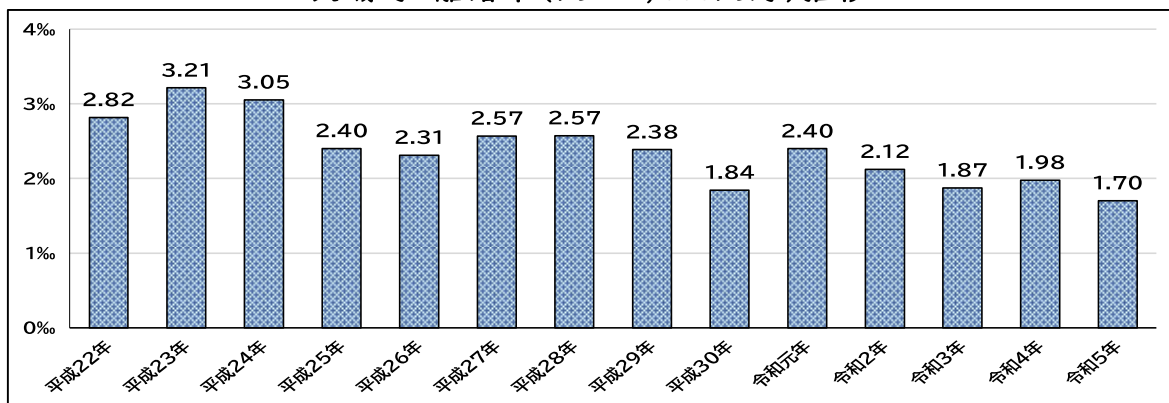
町の婚姻率、離婚率は、増減を繰り返しながら全体として減少傾向を示しています。

大磯町 婚姻率(人口1,000人対)推移



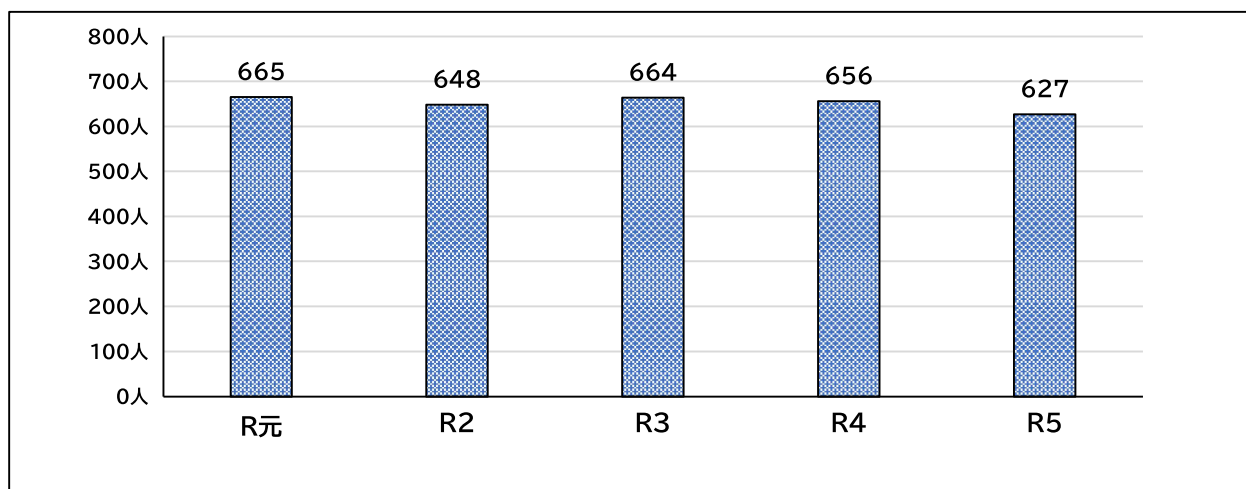
出典) 神奈川県衛生統計年報

大磯町 離婚率(人口1,000人対)推移



出典) 神奈川県衛生統計年報

(7) 保育所など児童受入れ確保数(4月1日時点)

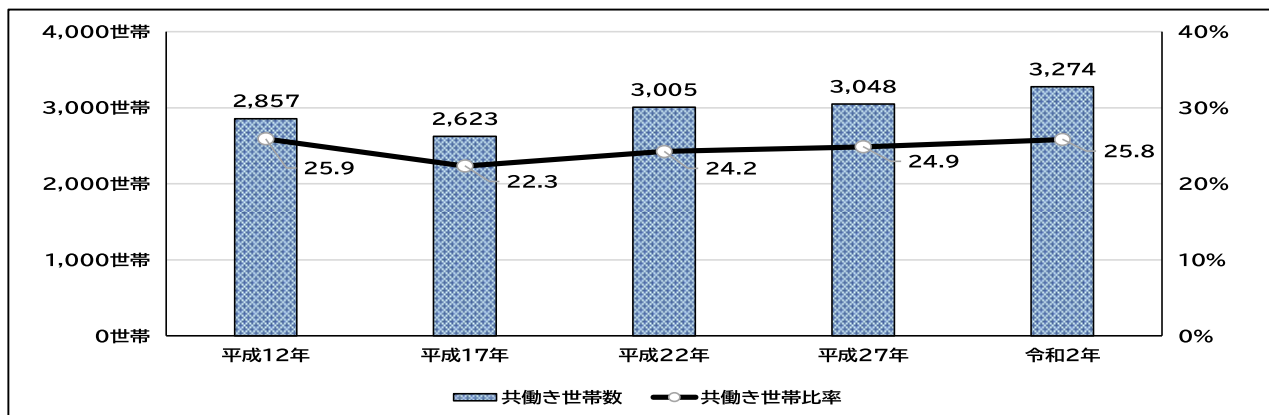


出典) 入所状況一覧

(8) 共働き・ひとり親世帯

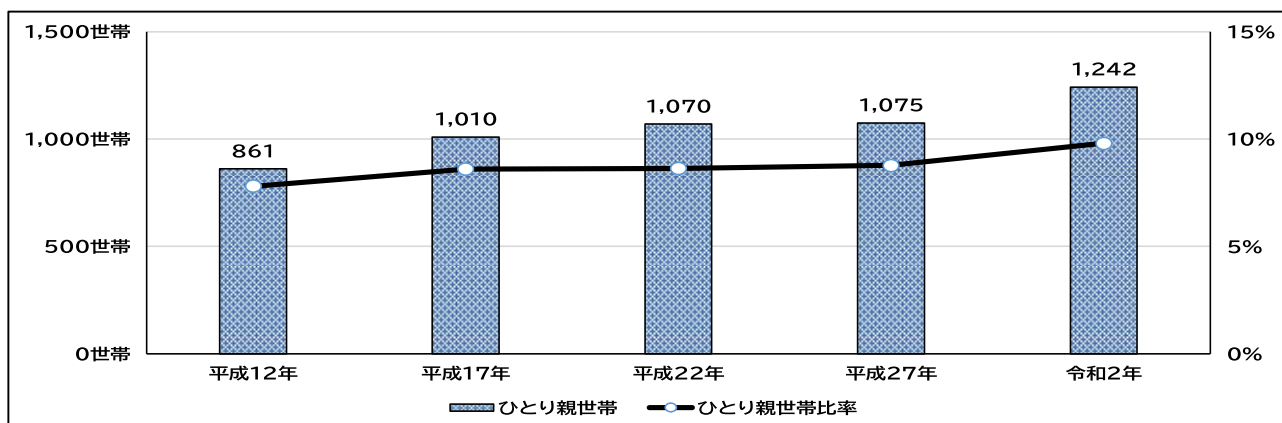
町の共働き世帯、ひとり親世帯は、増加傾向を示しています。

大磯町 共働き世帯の推移



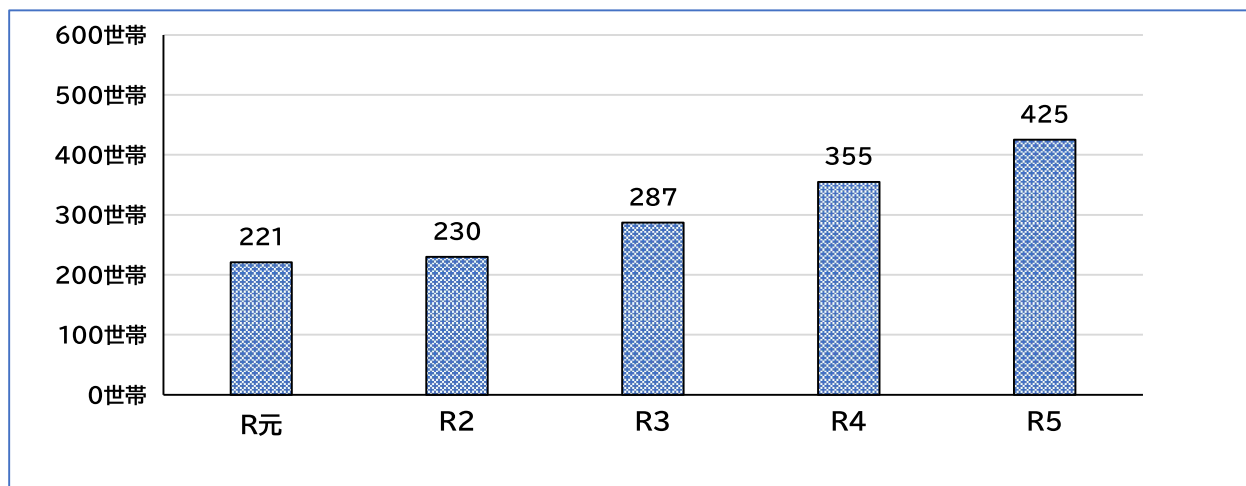
出典) 国勢調査

大磯町 ひとり親世帯の推移



出典) 国勢調査

(9) 子育て世代の転入数



出典) 住民基本台帳からの抽出 (転入世帯のうち39歳以下がいる世帯)

(10) こども人口推計

この計画の計画期間である令和7年度から令和11年度までの、年齢別人口統計調査をもとに町独自のこども人口推計です。各歳で見ると微増・微減がありますが、「合計」をみると減少傾向が見られます。

年齢	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
0歳	135	128	123	119	115	113
1歳	179	148	138	133	128	125
2歳	166	185	154	144	138	133
3歳	163	168	188	157	146	140
4歳	200	170	174	194	164	152
5歳	212	209	180	182	202	173
小計(0～5歳)	1,055	1,008	957	929	893	836
6歳	243	215	212	182	184	204
7歳	244	252	224	220	190	191
8歳	239	249	257	229	225	194
9歳	235	242	251	260	232	227
10歳	248	238	245	255	263	235
11歳	251	250	241	247	257	266
小計(6～11歳)	1,460	1,446	1,430	1,393	1,351	1,317
12歳	279	253	252	243	249	259
13歳	301	283	257	256	246	253
14歳	254	300	282	257	256	246
小計(12～14歳)	834	836	791	756	751	758
15歳	297	258	304	286	260	259
16歳	290	296	256	302	285	259
17歳	285	291	297	258	304	286
小計(15～17歳)	872	845	857	846	849	804
18歳	285	286	293	299	259	305
19歳	258	273	273	280	286	246
20歳	279	258	273	273	280	285
21歳	254	274	252	268	267	275
小計(18～21歳)	1,076	1,091	1,091	1,120	1,092	1,111
22歳	213	239	257	234	251	249
23歳	212	193	221	236	211	231
24歳	189	193	173	203	215	189
25歳	191	168	174	154	187	195
26歳	181	172	150	159	138	172
27歳	175	172	164	142	153	130
28歳	159	166	163	155	134	145
29歳	205	152	161	158	150	129
30歳	175	200	146	157	153	145
31歳	176	176	201	147	158	154
32歳	192	176	176	200	147	157
33歳	175	195	180	180	204	151
34歳	200	173	193	177	177	202
35歳	248	205	176	196	181	181
36歳	245	248	204	176	196	180
37歳	281	256	258	214	184	203
38歳	273	280	255	256	212	183
39歳	365	288	292	267	267	224
小計(22～39歳)	3,855	3,652	3,544	3,411	3,318	3,220
合計	9,152	8,878	8,670	8,455	8,254	8,046
総人口に占める割合(%)	29.5	28.8	28.4	27.9	27.5	27.1

※こども人口の推計は、コーホート法により、基準年を令和3年、実績年を令和6年とし、最近の動向を反映した推計を行っています。

3 こども・若者の状況と課題

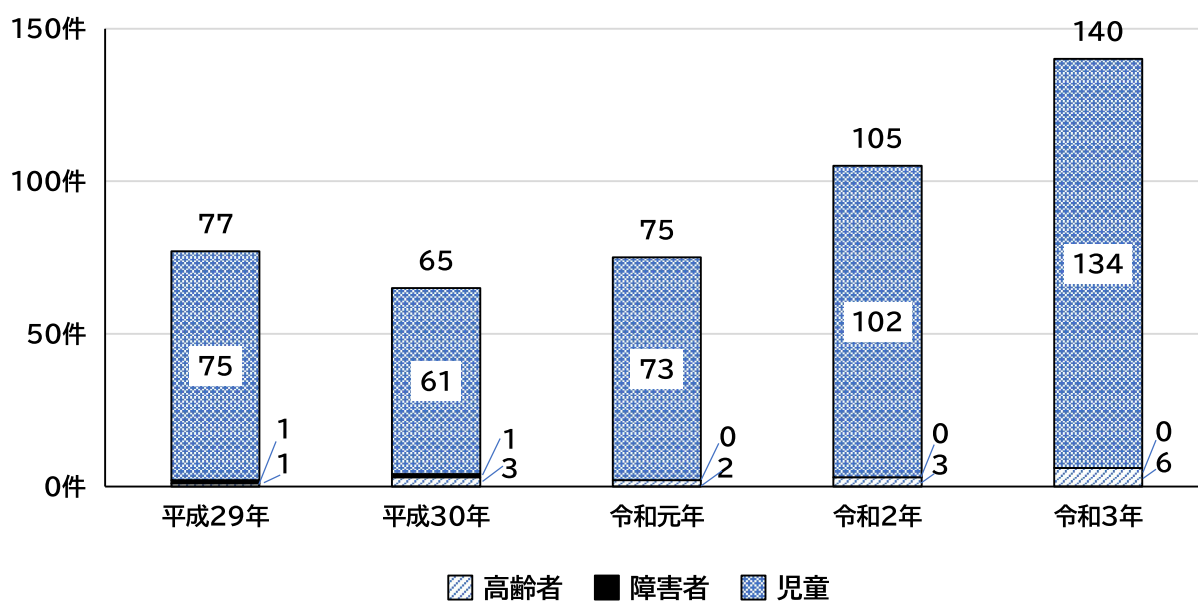
「大磯町子ども・若者支援に関するウェブアンケート調査」によると、町の若者の多くは現状の生活に充実感を感じており、家族との幸福な生活を求めていることがわかります。

このような若者を取り巻く環境を維持し、より良いものにしていくことはもちろんのこと、生きづらいと感じる環境に置かれている若者も少なからず存在することから、すべての若者が生きづらさを感じることをないように施策を展開していくことが求められています。

(1) 児童虐待

町の虐待に関する相談数は平成30年以降増加傾向にあり、その大半は児童虐待に関するものが占めています。

虐待に関する相談数の推移（大磯町）



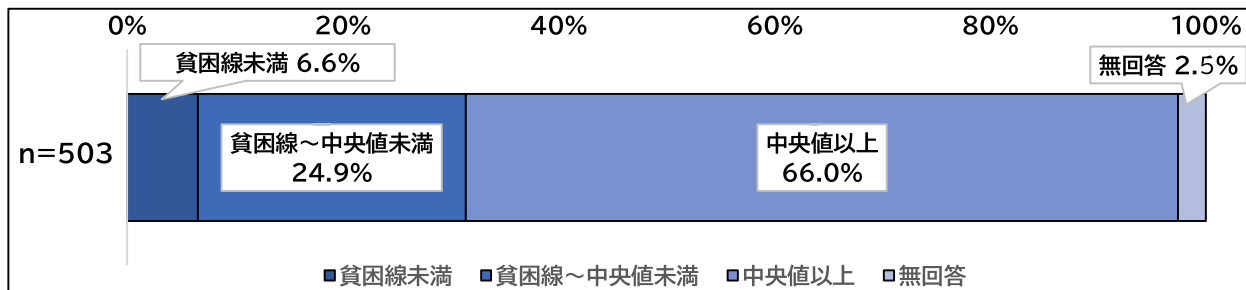
資料：高齢者虐待の防止、高齢者の擁護者に対する支援等に関する法律に基づく対応状況に関する調査、障害者虐待の防止、障害者の擁護者に対する支援等に関する法律に基づく対応状況等に関する調査について、町資料の児童虐待等相談対応件数（年度別相談種別）

出典）大磯町地域福祉計画

（２） 貧困

町の子育て中（未就学児）の世帯所得では、相対的貧困（貧困線未満）の割合は6.6 %（33世帯）で、このうちひとり親世帯は4世帯でした。

子育て中（未就学児）の世帯所得にみる相対的貧困の割合（大磯町）

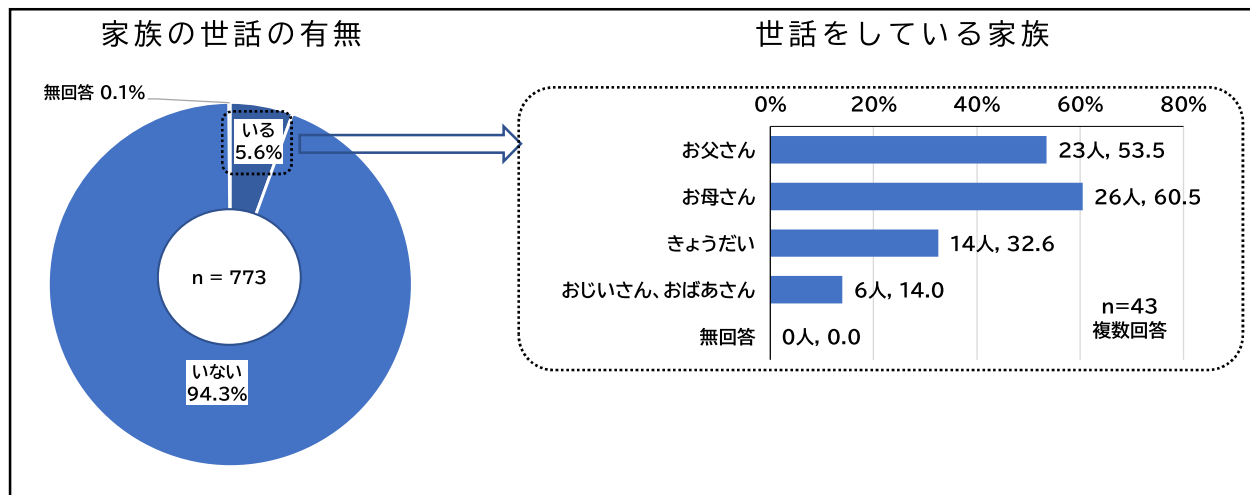


資料：（仮称）大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査（未就学）

（３） ヤングケアラー

町の若者（中学生以上）で家族の世話をしている人（ヤングケアラー）の割合は5.6%みられ、家事、買い物、病院の付き添い、日常の見守り、兄弟の世話などに時間が割かれていることが分かります。

若者（中学生以上）で家族の世話をしている人の割合と世話をしている家族（大磯町）



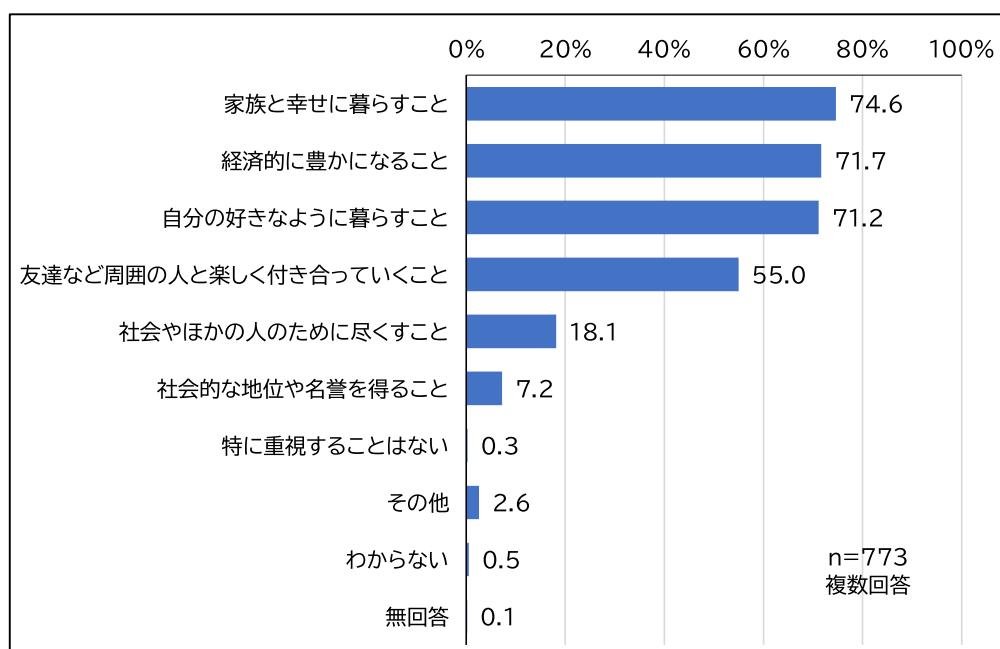
資料：（仮称）大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査（中学生以上）

(4) 若者の生活意識

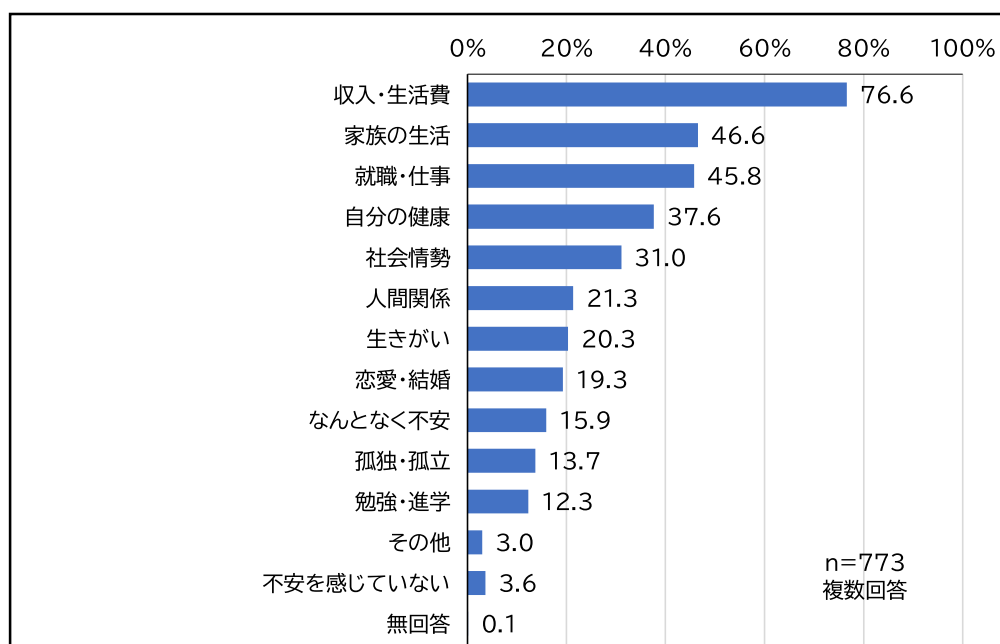
町の若者(中学生以上)が考える理想的な生き方は「家族と幸せに暮らすこと」であり、将来に向けては「収入・生活費」に不安を感じています。

生活の充実度では、「自分のことを大切に思ってくれる人がいる」、「頼れる人(家族友人地域の人等)がいる」、「自分の居場所や役割(家庭地域学校等)がある」の回答が6割を超えており、現在の幸せ度では、「幸せ度8」が23.9%で最も高く、『幸せ度5～とても幸せ10』の割合は90.7%と9割を超えて高くなっています。『幸せ度4～とても不幸1』と回答した割合は9.2%みられました。

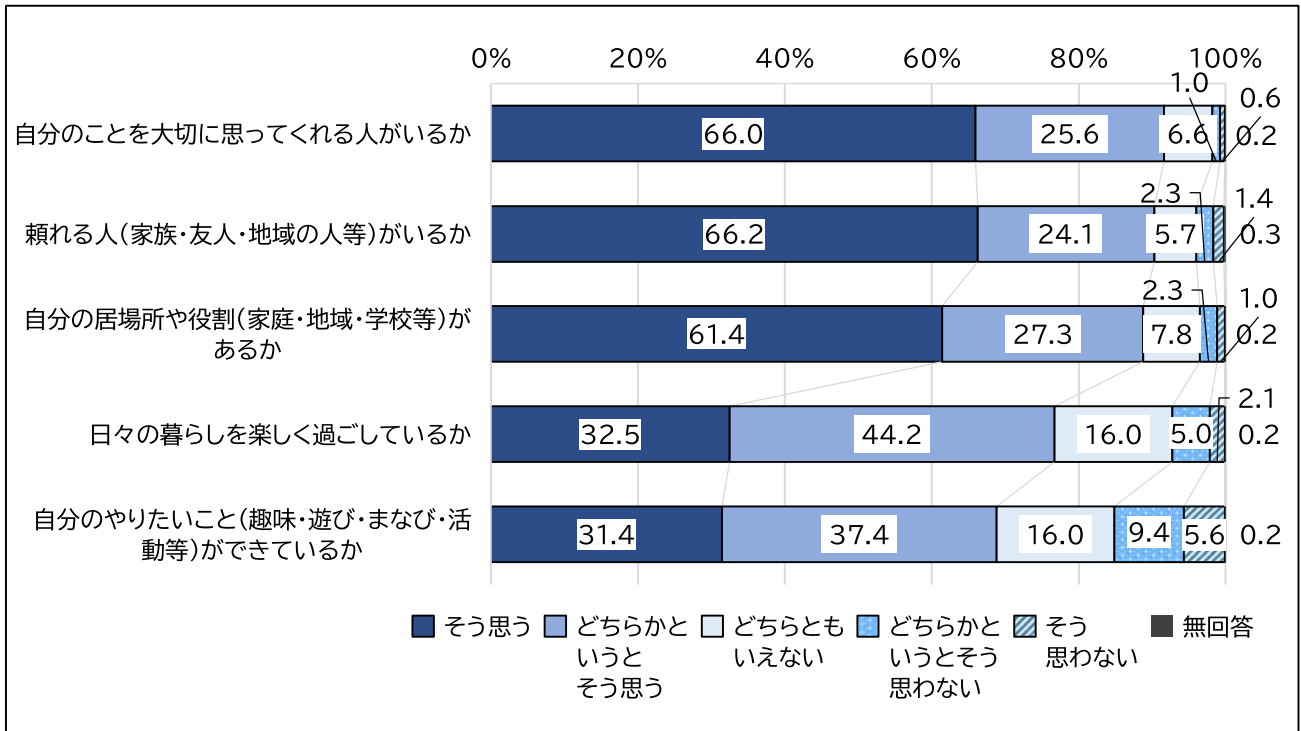
理想とする生き方



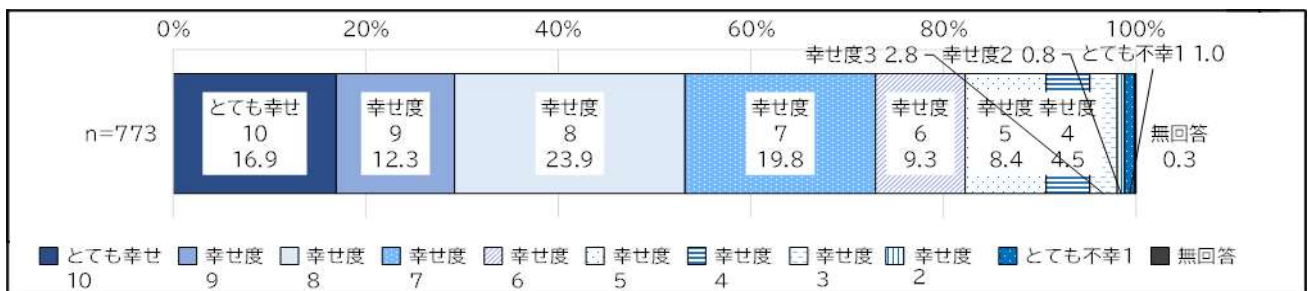
将来への不安



生活の充実度



現在の幸せ度



資料：（仮称）大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査（中学生以上）

【大磯町こども計画表紙デザイン応募作品】



4 子育て当事者の状況と課題

昨今、女性の社会進出が進むなか、男性が育児に関わるのはもちろんのこと、祖父母などの親族や知人の協力が重要です。

こどもの発熱や冠婚葬祭などの緊急時に、近くに協力者がいてくれることは子育ての大きな支えになります。就職などのため、一旦町外に移られたのち、大磯に戻って子育てをする方の理由の1つとして、近くに子育てを支援してくれる方がいることがあります。

今後、女性の就労支援に関わる子育て支援サービスの充実はもちろんですが、家族や地域で支えあって子育てをしている人たち、同居、親や親族の近くに住む近居などに対する支援も考えていく必要があります。

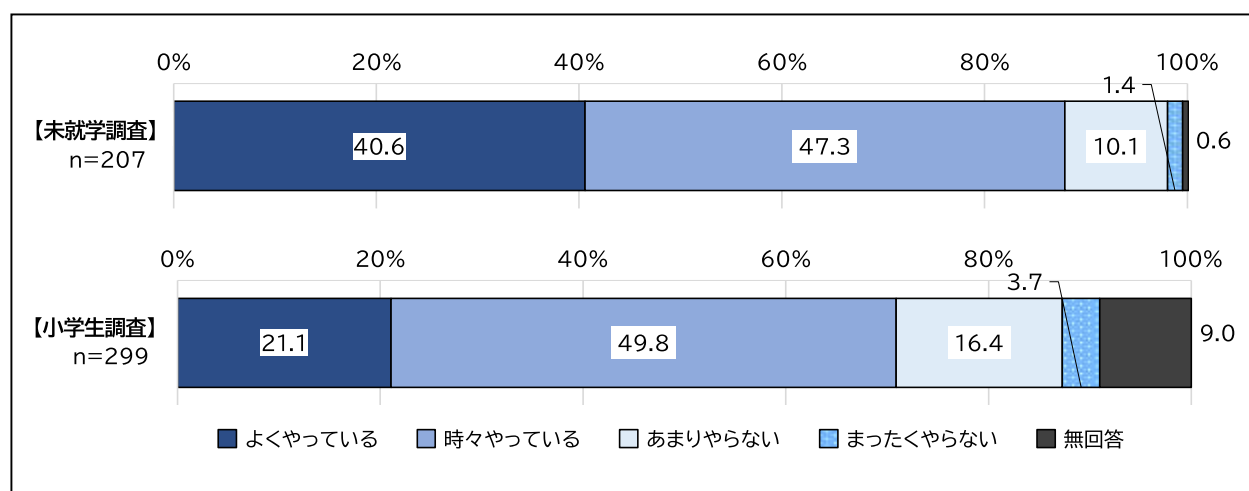
そのような環境が整えば、若い人たちが就労などで町外に出て行っても、子育てをする段階で大磯に帰ろうという気持ちになると思われます。

（１） 家庭での子育ての状況について

町における配偶者の子育て協力状況は、未就学・小学生ともに「よくやっている」と「時々やっている」を合わせた＜よくやっている＞は、7割以上が夫婦で協力して子育てしている傾向がうかがえます。

家族で協力して子育てをしている状況から、今後は、母親だけでなく父親への支援も必要です。

配偶者の子育て協力状況（大磯町）

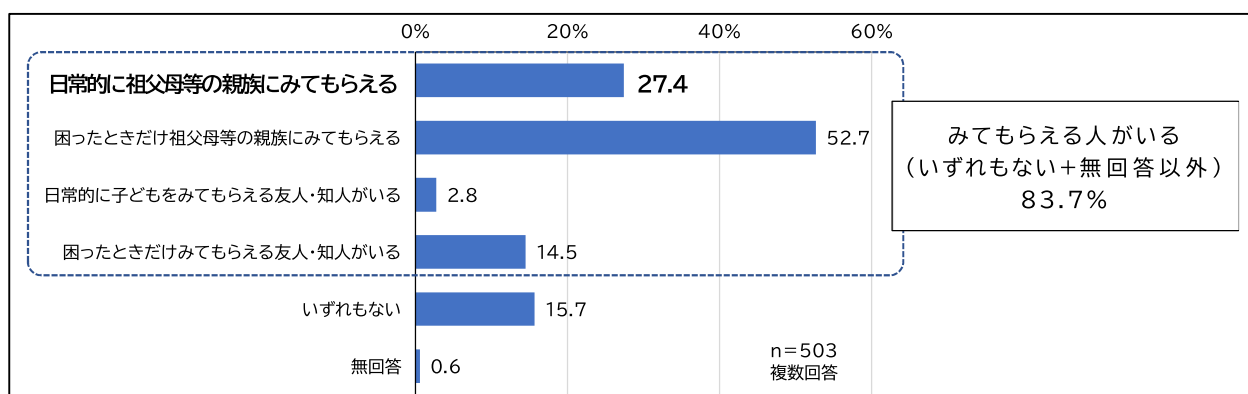


資料：（仮称）大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査（未就学・小学生）

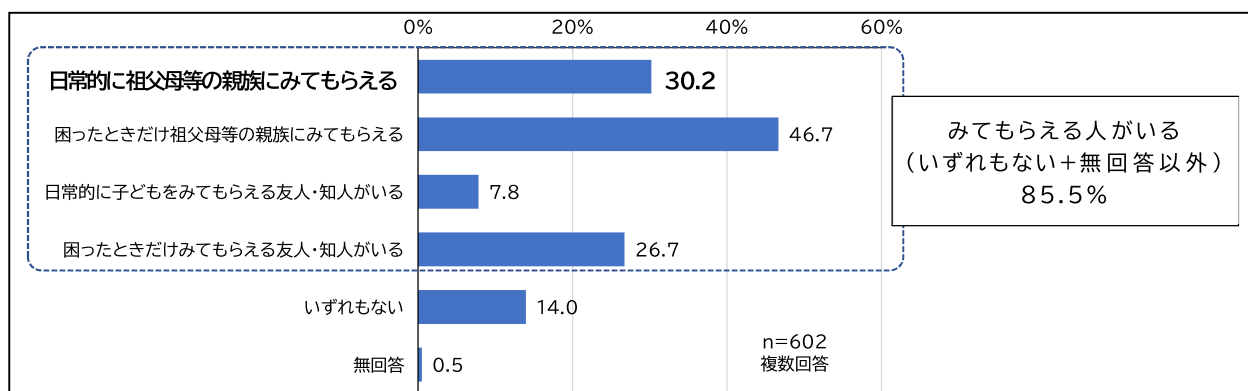
（２） 子育てに関する周囲の協力状況について

町における未就学・小学生ともに＜みてもらえる人がいる＞割合は８割台となっており、いざという時には親族や知人からの協力が得られる家庭環境にあるといえます。しかし一方で、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」は未就学では２割台後半、小学生では３割台となっており、日常的な協力を得ている家庭は少数派です。

日頃、「お子さん」をみてもらえる親族・知人はいるか（大磯町）【未就学調査】



【小学生調査】



資料：（仮称）大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査（未就学・小学生）

【大磯町こども計画表紙デザイン応募作品】

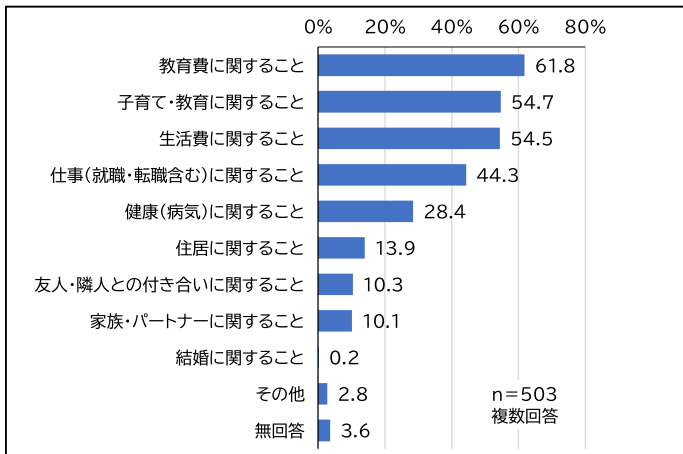


(3) 生活するうえでの不安や悩みについて

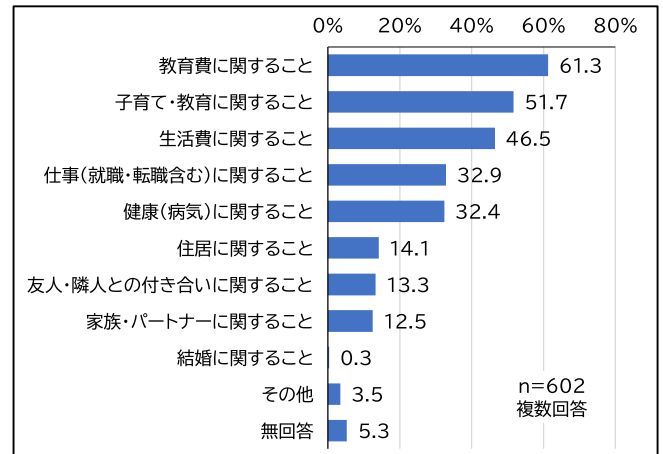
未就学・小学生ともに「教育費に関すること」の割合が6割台で最も高く、次いで「子育て・教育に関すること」、「生活費に関すること」、「仕事に関すること」、「健康に関すること」の順に挙げられています。

生活するうえでの不安や悩み（大磯町）

【未就学調査】



【小学生調査】



資料：（仮称）大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査（未就学・小学生）

(4) 保護者の就労状況について

配偶者の就労状況は、父親では未就学・小学生ともにフルタイム就労が9割以上を占めています。母親の就労している割合は、6割強となっています。未就学児では、＜両親ともにフルタイムで就労＞が39.2%となっているのに対し、小学生では24.3%と減少しています。

父母の就労形態などを考慮した「家族類型」による就労状況を、過去の調査結果と比較すると、確実に共働き家庭が大きく増加しており、この変化に対応した施策を検討していく必要があります。

家族類型による就労状況

区 分	内 容	未就学児	小学生
ひとり親家庭	ひとり親(就労形態に関わらず)	2.0%	4.2%
フルタイム就労	両親ともにフルタイムで就労	39.2%	24.3%
フルタイムパート	両親のいずれかがフルタイム いずれかがパートタイム就労	22.7%	42.9%
専業主婦(夫)	両親のいずれかがフルタイムで就労している	33.0%	26.6%
パートパート	両親ともにパート	0.0%	0.0%
無職	両親ともに無職	0.0%	0.0%
分類不能	不明	3.1%	2.0%

資料：（仮称）大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査（未就学・小学生）

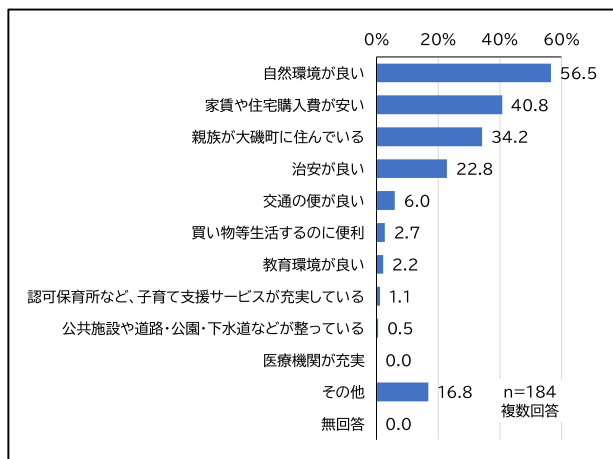
（５） 大磯町に転入した理由について

（第１子が生まれたとき、または妊娠の際、大磯町に住んでいなかった方）

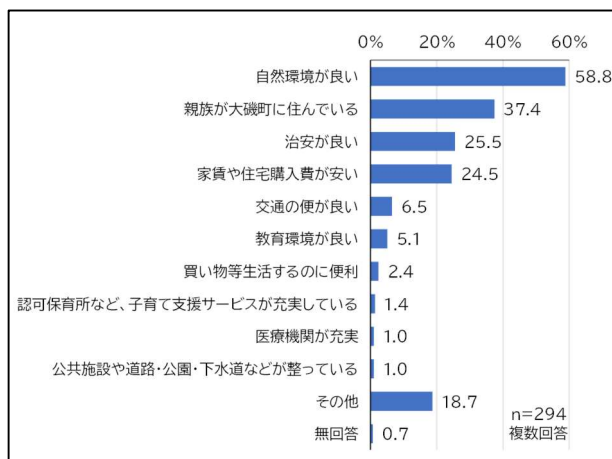
未就学での上位３位の項目は、「自然環境が良い」、「家賃や住宅購入費が安い」、「親族が大磯町に住んでいる」の順、一方小学生では「自然環境が良い」、「親族が大磯町に住んでいる」、「治安が良い」の順となっています。

大磯町に転入した理由

【未就学調査】



【小学生調査】



資料：（仮称）大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査（未就学・小学生）

【大磯町こども計画表紙デザイン応募作品】



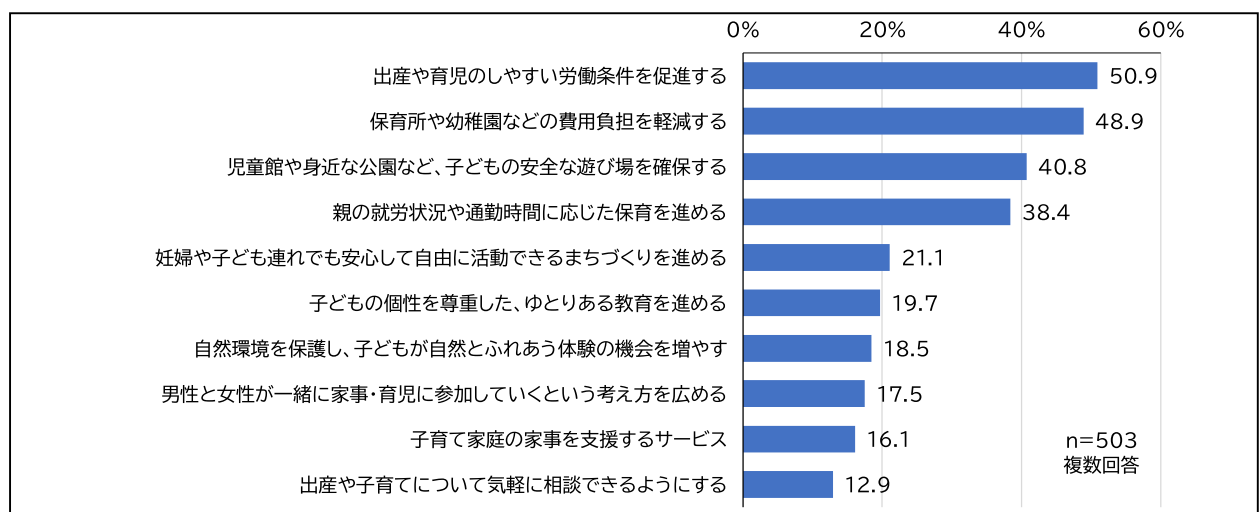
（６） 子どもを健やかに育てるために必要と思われることについて

未就学での上位３位の項目は、「出産や育児のしやすい労働条件を促進する」、「保育所や幼稚園などの費用負担を軽減する」、「児童館や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する」の順となっています。

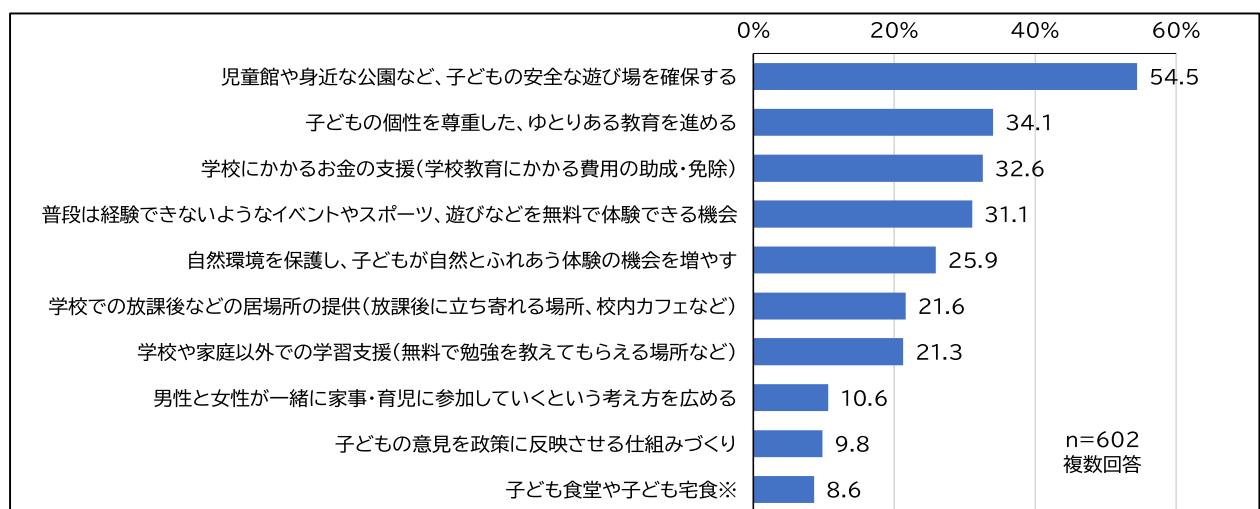
一方、小学生では「児童館や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する」、「子どもの個性を尊重した、ゆとりある教育を進める」、「学校にかかるお金の支援」の順となっています。

大磯町 子どもを健やかに育てるために必要と思われること(上位10項目)

【未就学調査】



【小学生調査】



資料：（仮称）大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査（未就学・小学生）

5 子育てをめぐる町民の意識

町における子育て環境や子育て支援の満足度は高く、その背景には、恵まれた自然環境に加えて、気軽に相談できる人や子育て仲間など、身近な親族知人友人といった存在の大きさがうかがえます。

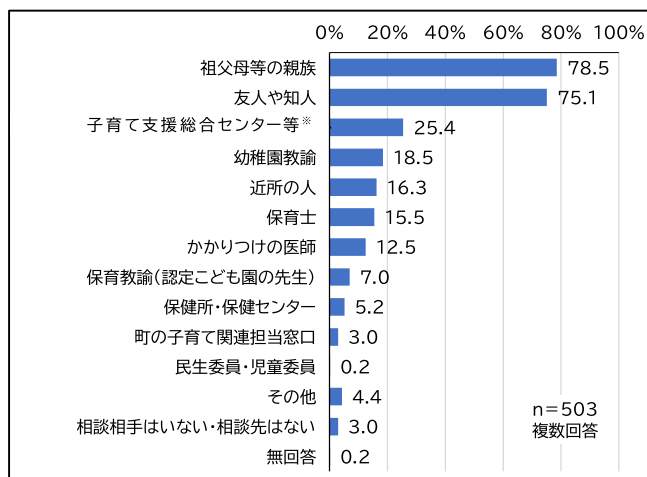
安心して子育てをするためには、「子育て中の親子が集まったり遊べる場を増やす」、「地域の大人たちが連携して、こどもの活動を育成支援する場をつくる」など、地域ぐるみの子育て支援が重要な課題となっています。地域ぐるみの子育て支援を進めることで、ひとり親家庭や相談できる人がいないなど孤立しがちな世帯に対して、孤立させない支援を進めていく必要があります。

(1) 気軽に相談できる人、子育て仲間について

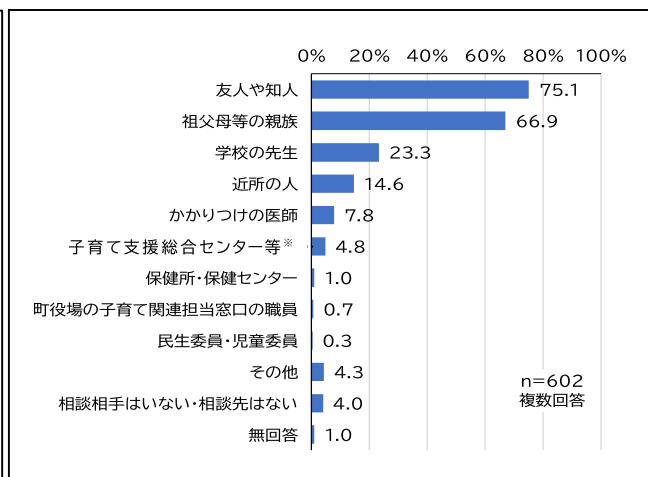
気軽に相談できる人については、未就学では「祖父母等の親族」と「友人や知人」が7割以上で高く、小学生では「友人や知人」が7割、「祖父母等の親族」が6割台挙げられていること、子育ての仲間については、9割以上の方が<いる>としていることから、身近な親族・知人・友人といった存在の大きさがうかがえます。

気軽に相談できる人（大磯町）

【未就学調査】

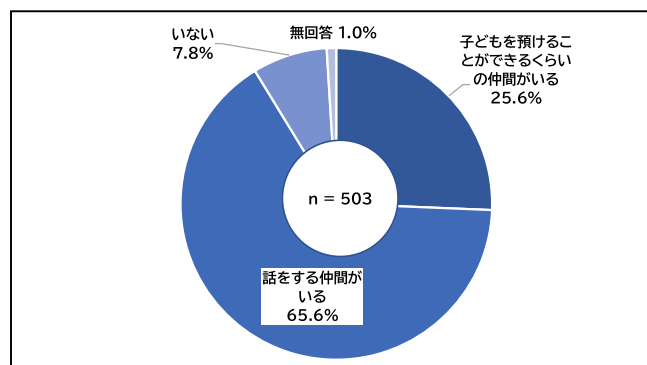


【小学生調査】

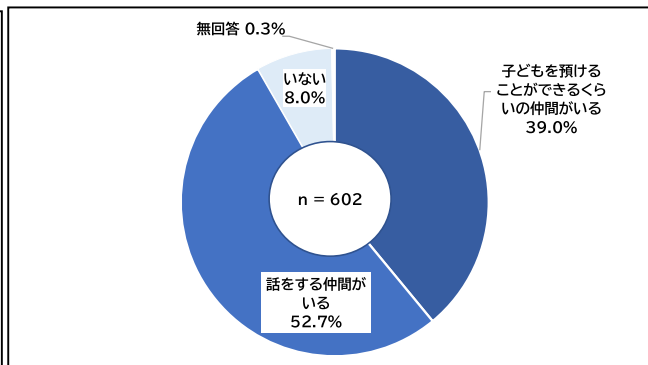


※上記回答中「子育て支援総合センター等」…めばえ、すくすくのつどいの広場など

【未就学調査】



【小学生調査】



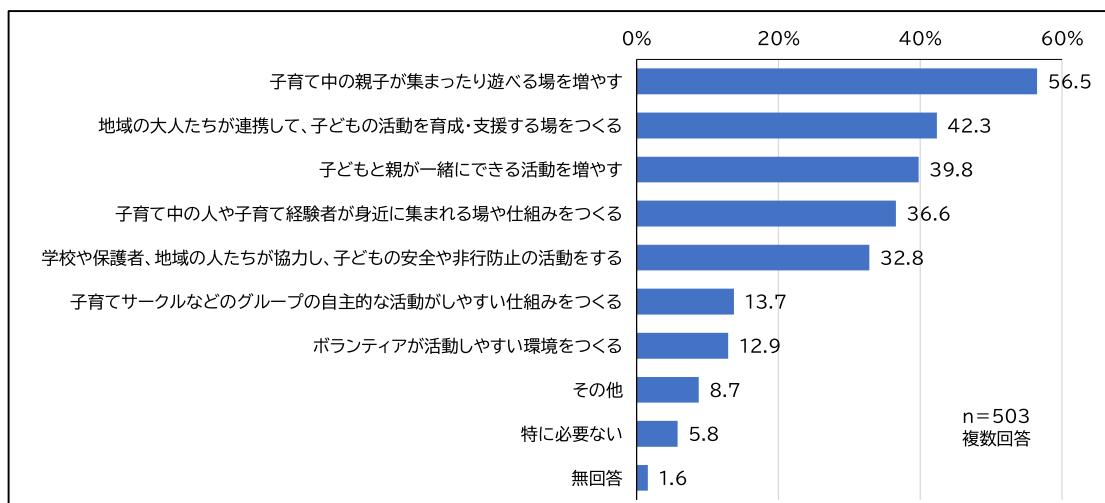
資料：（仮称）大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査（未就学・小学生）

（２） 安心して子育てをするために必要な地域の取組みについて

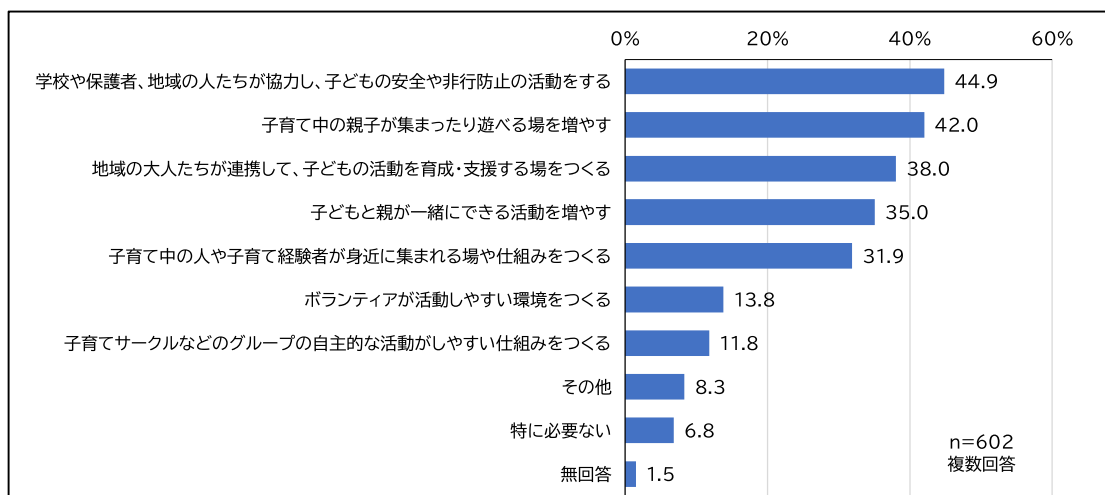
「子育て中の親子が集まったり遊べる場を増やす」が未就学で６割弱、小学生で４割強となっています。また、「地域の大人たちが連携して、子どもの活動を育成・支援する場をつくる」が未就学で４割強、小学生で４割弱となっていることから、地域ぐるみの子育て支援は今後も重要な課題となっています。

安心して子育てをするために必要な地域の取組み（大磯町）

【未就学調査】



【小学生調査】



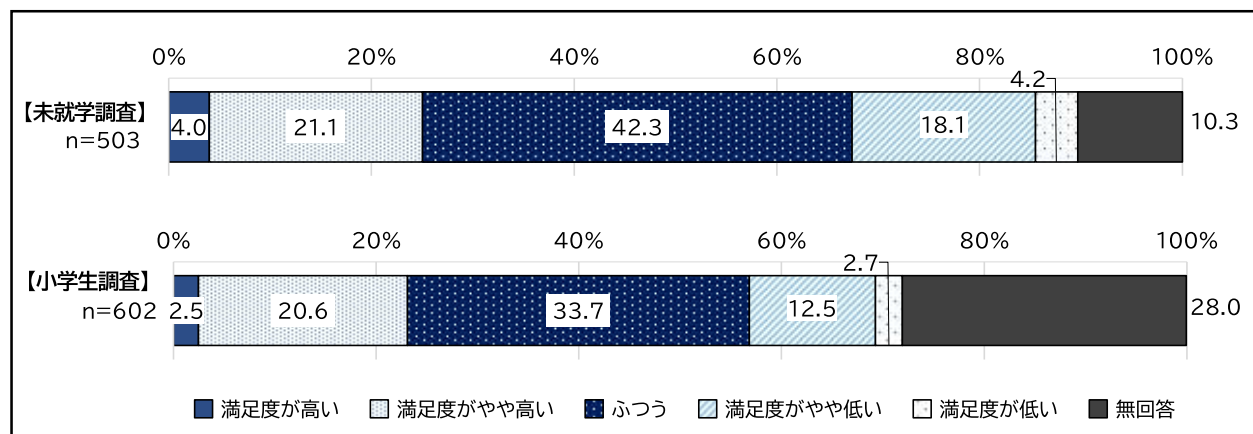
資料：（仮称）大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査（未就学・小学生）

（３） 子育ての環境や支援の満足度について

未就学・小学生ともに、「ふつう」が３～４割で最も高く、次いで「満足度がやや高い」が２割代、「満足度がやや低い」が１割代の順となっています。

「満足度が高い」、「満足度がやや高い」のどちらも小学生より未就学の方が高く、子育ての環境や支援の満足度は、小学生より未就学の方が高くなっています。

子育ての環境や支援の満足度（大磯町）

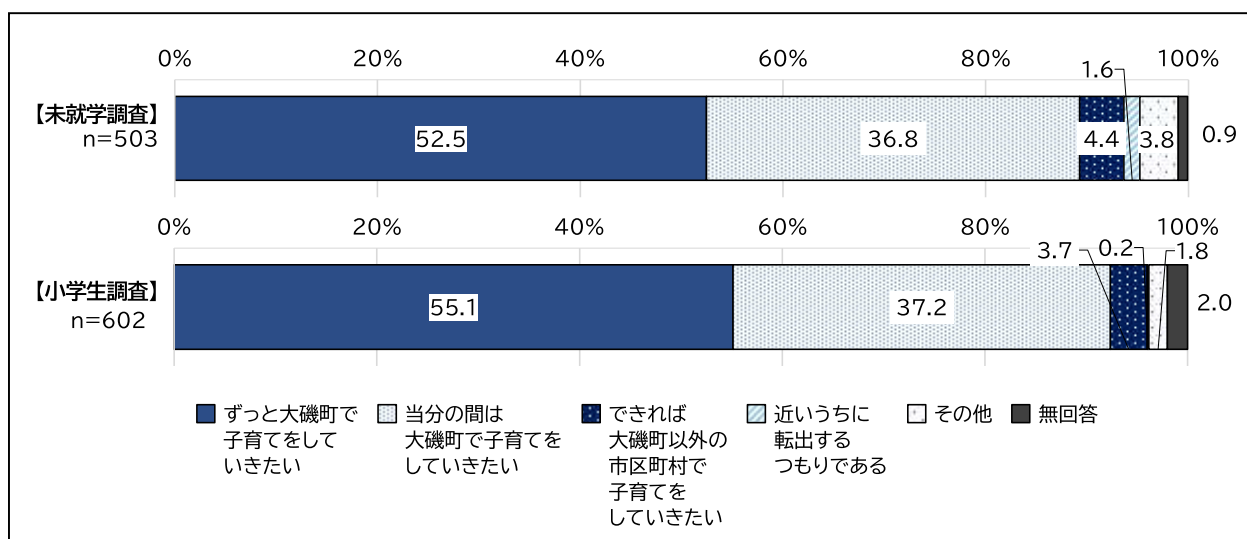


資料：（仮称）大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査（未就学・小学生）

（４） 今後も、大磯町で子育てをしていきたいと思うか

「ずっと大磯町で子育てをしていきたい」、「当分の間は大磯町で子育てをしていきたい」のどちらも未就学より小学生の方が高く、大磯町で子育てをしていきたいという思いは、未就学より小学生の方が高くなっています。

今後も、大磯町で子育てをしていきたいと思うか（大磯町）



資料：（仮称）大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査（未就学・小学生）

6 子育て支援サービスの状況と課題

「第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン」では、人口減少や少子高齢化など、こどもを取り巻く環境が大きく変化する中、基本方針として①安心して子どもを産み、育てられる子育て環境づくりの促進、②家庭、地域、行政が連携し子どもを育てていく体制づくりの促進、③多様な保育サービスなど子育て支援機能の充実に掲げ、さまざまな施策に取り組んできました。

第2期計画は、令和6年度が計画期間最終年度ではありますが、次期計画へとつなげていく必要があることから、現時点（令和2年度～5年度）までの総括を行うものとします。

1. 計画の目標値

第2期計画では、総人口に対する0～14歳人口の割合を評価指標として設定しました。令和5年度時点で、目標値である11.5%を0.7ポイント下回り、10.8%となっており、計画開始年度である令和2年度からみても徐々に減少しています。

	評価指標	単位	現況	R2	R3	R4	R5	R6	目標
実績	0～14歳の人口割合	%	11.5 (H30)	11.1	11.1	10.9	10.8		11.5

2. 計画事業の進行状況

令和2年度から令和6年度までを計画期間とする「第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン」においては、毎年度、記載されている事業及び量の見込と確保方策について、進行管理を実施してきました。令和4年度には中間評価を行い、見込み及び確保方策の修正を行いました。

また、町が実施しているサービスについて進行管理を行い、施策の改善、また新たな事業の実施に向けて取り組んできました。

(1) 年度別にみる事業評価

各年度ごとの事業評価をみると、計画開始年度の令和2年度は、61事業がA評価であったのに対し、令和3年度、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により事業の縮小や中止がありA評価がそれぞれ56事業、57事業と減少しています。令和5年度になり、新型コロナウイルス感染症の影響が緩和されたことにより、令和2年度を上回る67事業がA評価となっています。

なお、事業評価がC評価となっている事業は、継続して実施に向けた検討を行っているものの事業開始ができていない、子育て短期支援事業の実施に向けた環境整備と大磯幼稚園の認定こども園化に係る事業が該当しています。

年 度	評 価			事 業 数
	A	B	C	
令和 2 年度	61	33	1	95
令和 3 年度	56	38	1	95
令和 4 年度	57	34	4	95
令和 5 年度	67	25	3	95

【参考】

- A 事業目標を達成した、または達成した事業を継続的に実施できている。
- B 事業目標に達していないが、概ね成果があった。
- C 事業が未着手、または検討段階にある。

(2) 基本目標別の事業評価

基本目標ごとの事業評価を見ると、継続的に事業実施している A 評価と概ね成果があった B 評価を合わせた事業数を比較すると、基本目標 2・4 では、計画開始年度の令和 2 年度を上回っています。また、基本目標 1・4・6 では令和 2 年度と同程度の数となっています。

一方、基本目標 5 においては、「大磯幼稚園の認定こども園化に係る事業」が C 評価となっており、令和 2 年度を下回っています。

基本目標 (A・B 評価の合計)		R2	R3	R4	R5	全事業数
1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり	18	9	18	18	19
2	子どもの心豊かな成長を育む環境づくり	13	7	17	16	16
3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり	22	8	23	23	23
4	地域が支える子育て環境づくり	13	7	13	13	14
5	子育てと仕事の両立支援	12	4	11	11	12
6	心配りが必要な子どもたちへの支援	11	3	11	11	11

3. 時点総括

令和 2 年度から令和 5 年度にかけて取り組んできた子育て支援施策は、目標値である 0～14 歳人口の割合は達成できていないものの、ニーズ調査などにおいては、未就学児、小学生の世帯では、「今後も大磯町で子育てしたい」が 9 割近くに達しています。

しかしながら、各事業を実施する中で、利用者数や利用率が低い取組み、これまで実施できていない取組みもあります。

事業の実施方法などについて見直しを行うとともに、新たな事業の展開にあたっては、町単独での取組みだけでなく、神奈川県や近隣自治体及び民間企業などとの協力・連携を図り、面としての視点を持ちながら支援に取り組む必要があります。

【大磯町こども計画表紙デザイン応募作品】



〇〇〇〇さん



〇〇〇〇さん



〇〇〇〇さん



〇〇〇〇さん



〇〇〇〇さん



〇〇〇〇さん



〇〇〇〇さん

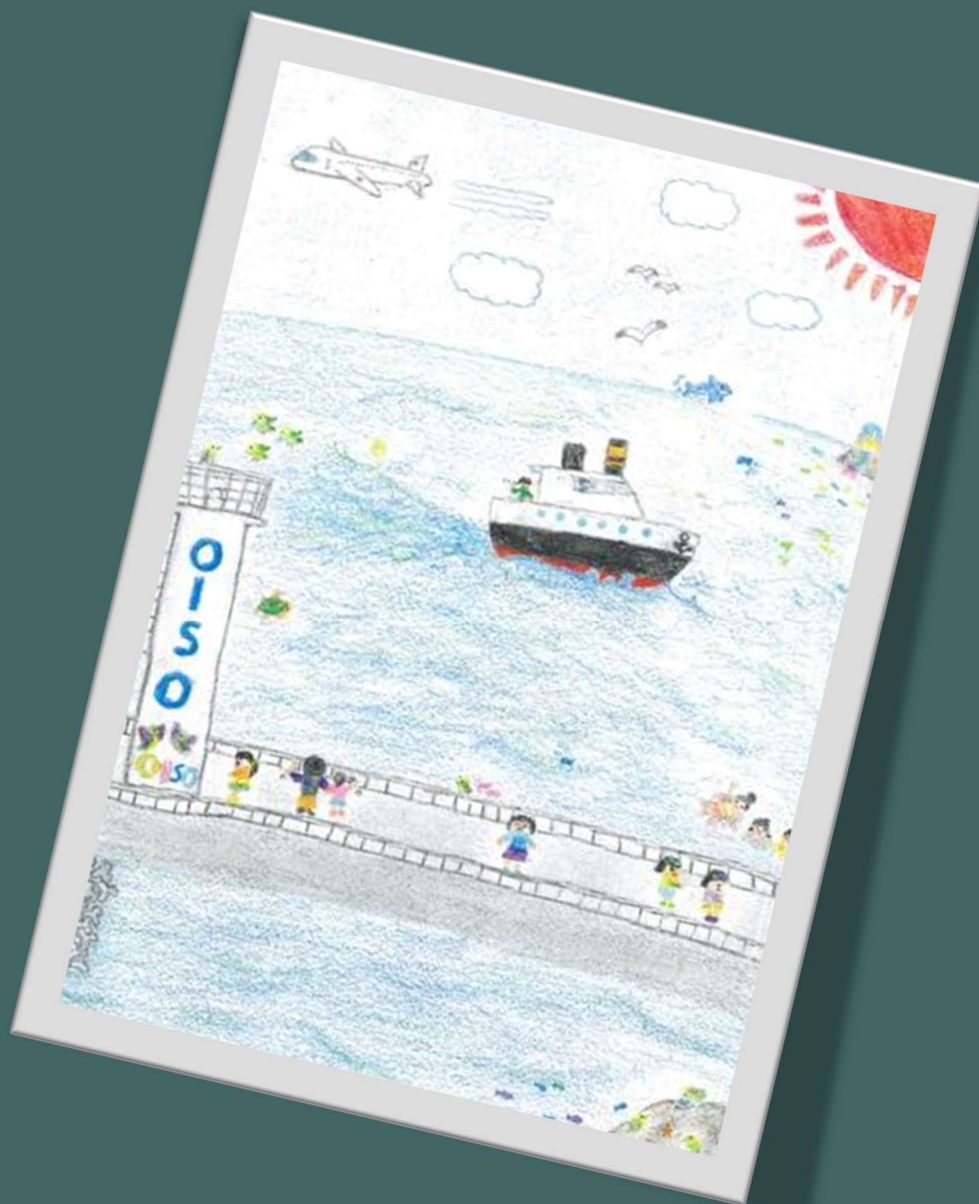


〇〇〇〇さん



〇〇〇〇さん

写真



大磯町こども計画表紙デザイン募集 優秀作品

「おいそだいすき」

竹内 あかりさん（小学3年生）

令和7年3月 発行

編集 大磯町 町民福祉部 子育て支援課

制作 株式会社 地域環境計画